三宝さんは三泗の今６年生。５年生の最後に勉強したのですね。

こんにちは三宝（みほ）です

今日から春休みです。私は先日学校で、「公害について」勉強をしました。

コンビナートができて・・・昔、私らが生まれた時は、ここ「磯津」は田園地帯で、百姓と漁師がしていて公害というものは何にもなかった。ところが、工場ができたわけ。この工場ができた時点では、私らこの地域の人は、非常に喜んだ。大きな工場ができるんだ・・・と。

日本の中心になる三菱やそんなんがきてくれて、大きな工場を造ってくれるんやと、四日市も大都会になるんだと喜んだ。

Ｎさん「公害病認定患者・裁判原告者」

磯津で漁師をしている。公害がひどかった頃、ぜんそくの発作が起こりやすい夜は塩浜病院の空気洗浄室で過ごした。医者は反対したが、漁の時間になると病院を抜け出して海に出て行く生活を長く送っていた。現在では漁師を続けながら、「語り部ボランティア」として自分の公害体験を語り継ぐ活動をしている。

Ｎさんは『昔は学校の帰りに鈴鹿川を歩いてわたりながら、カレイやカニ、エビなどを手づかみしては、晩御飯のおかずにしていた』『公害は磯津の海を破壊した。』あの豊かな自然を今の子供たちに自慢できないのが、漁師として何より悲しいと言う。

四日市公害がおこったわけ・・・

①経済の発展が優先され、市民の生活を守るということが後回しにされた。
②石油化学コンビナートが、住宅にとなり合ってつくられた。
③コンビナート内の石油化学工場では、石油からものをつくるのに、
体に害のあるガス〔亜硫酸ガス〕を出した。また、汚れた水をそのまま海に流した。
④市民を守るための法律がなかなか整えられていなかった。
・・・と学校で学びました。

私には難しくてお母さんに聞きました。だけど、お母さんも詳しくは知らないけど、ぜんそく発作が苦しくて苦しさのあまりに自殺した人もいると聞きました。その中で、『磯津漁民一揆』についてお母さんもわからないと言うので萩森先生教えてください。（返信の答は省略です。）